

サポートチャイルド アノント コル君のお話

アノント君の一家5人は、1998年の洪水の後にこの村にやってきました。家族はとても貧しく、父親は日雇い労働者として働いていますが、稼いだお金は家族に十分ではなく、なんとかその日を暮らしています。母親も生計を立てるために日雇い労働者として働くことがあります。母親は「一日の終わりに家族が何か食べる物があるように」と願っていました。

アノントは緑に囲まれた小さな村に住んでいます。村には14家族が住んでおり、人口は80~90人ほどです。村の真ん中には池があり、村人の家はこの池の周りに建てられています。市場は村から遠く離れているため、野菜売りが彼らの村に来ますが、高い値段で野菜を買わされます。家の庭には十分なスペースがないため、自分たちで野菜を育てることはできません。家族の水源は村の真ん中にある池の水です。

家族が直面していた問題

アノント君の村では誰もが貧しく、男性は生計を求めて一日中外で働きます。女性は一日のほとんどを家の外で、燃料として使う乾燥した木や料理用の葉を探します。また野菜を探す人もいれば、牛のための牧草を集めます。幼い子どもたちは祖父母と一緒にいるか、近所の子どもたちと一緒にいます。近所の子どもたちは思い思いに池の水浴びをして遊びます。家に帰っても、汚れた不衛生な水を飲みます。それが彼らの健康を損ない、胃の病気、風邪や咳に苦しんでいた原因となっています。村人のほとんどは水による感染症に苦しんでいました。

村のリーダーと数人の人々は副収入のために池で魚の養殖を始めましたが、これが原因で池の水が汚染されることがあり、水中には小さな砂利が見られます。それでも、他に手立てのない村人たちはその水を飲料水として使用し、胃の病気を含むさまざまな汚染された水による病気に苦しんでいました。また、皮膚病やかゆみにも常に悩まされてきました。

FHはどのように助けましたか？

FHは2021年から、アノント君の村で支援活動を始め、3つの村の人々と共に地域開発委員会を結成しました。アノント君の母親がこの委員会に代表として参加しました。彼女はいつも水の問題を取り上げ、委員会と村長に飲料水について話してきました。そして、ついに2022年、アノント君の村にFHから飲料水のための設備が提供され、村人と幼いアノント君はとても喜びました。また、学校でもいつもきれいな水を飲むことができるようになりました。



子どもの生活はどのように変わりましたか？

今、アノント君の村では誰もがきれいな水を使用しています。もう日常生活で池の水を使用することはできません。池は現在、魚の養殖に使用されています。村人は皆、水タンクからのきれいな水を使用しています。彼らはその水を料理、入浴、衣服の洗濯、その他の家庭活動に使用しています。

アノント君は、「FHからこのような高価な贈り物をもらえてとてもうれしいです。純粋な飲料水は私たちの生活においてとても重要です。ありがとうございます、FH。」と語ってくれました。

母親もまた、「以前はチューブから飲料水をうまく集めるのはかなり難しかったです。重労働から戻った後はとても疲れていて、飲料水を集めることができませんでした。ですから、このきれいな水の設備は私たちの生活の中で最も重要な贈り物です。幸せすぎて、自分の気持ちをうまく言葉で表現することができないほどです。FHに感謝します」と語ってくれました。

地域に住人も、「私たちには安全な水を供給する施設を設置する余裕はありません。けれども、その設備を世話をするために今後いくつかの活動をすることはできます。このことは私たち村人の大きな資産だと思っています」と話してくれました。



チャイルドサポーター活動報告 バングラデシュ（ジリム集落）

報告期間：2022年10月～2023年3月

《本地区の支援活動は、2022年1月に始まり、2032年1月に卒業を迎えます》

チャイルドサポーター活動は、世界の飢餓や貧困地域に住む子どもたちが健やかに成長できるよう、子どもたちを取り巻く環境の改善を図りながら、最終的に地域が貧困から卒業することができるようを目指します。現地では国際飢餓対策機構(FH)と共に働きを推進しています。

ジリム集落についての背景

ジリム集落はラジシャヒ管区チャパイナワブガンジ県内にあります。多くの先住民が住んでいることでよく知られています。ジリム集落の人々のほとんどは、パドマ川流域とその周辺地域からやってきて、ここに永住しています。そのほとんどが貧困ライン以下で生活しています。また、この地域の人々は、イスラム教、ヒンズー教、キリスト教の3つの宗教に属しています。

多くの人々が農業や石工の日雇い労働者として働いていますが、中には、行商人や食料品店のような小商いで生計を立てている人もいます。家族を持つ男性は、生計を立てるために首都を含む国内のさまざまな場所に出かけています。日雇い労働者として働きながら、限られた賃金を得ていますが、家族を養うには十分ではありません。耕作可能な土地の大半を少数の人々が所有しているため、人々の収入源は限られており、賃金も低いため、最も弱い立場に置かれています。人々は耕作地を持っていないため、国有地や私有地で生活しています。地域の先住民の女性は、日雇い労働者として畠で働き、働き口のない女性たちもいます。人々は迷信を強く信じており、識字率、健康状態の悪さが悪影響を及ぼし、特に清潔な水と衛生設備がありませんでした。この地域では、子どもの結婚や離婚をする割合が非常に高く、その結果、学校から退学する子どもたちが増え、児童労働に巻き込まれてしまうようになりました。

FH バングラデシュの活動

FH バングラデシュはこの地域で、2020年10月から活動を開始し、ハンガーゼロは2022年1月からこの地域を支援しています。ジリム集落には、49村がありますが、その内16の村には先住民族が古くから住んでいます。ジリム集落の13の村で、現在FHは主に2つの活動を通して包括的な地域開発を進めています。以下に、活動のハイライトをご報告いたします。

保健・栄養・水・衛生活動



保健推進ボランティアのグループ形成

地域の人々の健康状態を改善するために、ジリム集落の異なる村々から70人の母親ボランティアたちが集まり、6つの保健推進グループが形成されました。各グループには、リーダーが立てられ、12人のメンバーが所属しています。ボランティアグループのリーダーたちは、「妊娠中と授乳中の母親のケア」について学びました。トレーニングは毎月行われ、リーダーたちは、近隣のサークルに所属している母親

たちに学んだ内容を分かち合っています。母親たちは、学んだことを実践することにより、これまでの習慣にいくつかの変化が見られるようになりました。例えば、妊娠中に保健所に行くことをしてこなかった母親が、保健所でのサービスを受けるようになりました。また、妊婦にとって必要な栄養素であるヨウ素、鉄、葉酸を摂取するようになった母親たち、また妊娠中の母親と赤ちゃんの危険な兆候を学び、認識するようになるなど、一例として挙げられます。



15人の母親たちは、子どもの栄養について学ぶ機会がありました。これまで、母親たちは子どもの栄養について全く知らされていなかったため、地域の子どもたちは常に栄養失調に悩まされ、特に子どもたちが最も弱い立場に置かれていました。子どもに

与える栄養の重要性について学んだ母親たちは、知識を深めることで、そのことを理解できるようになってきました。これらの知識を、村の人たちにも共有しながら、子どもの栄養状態を向上させています。

10歳～16歳までの132名の児童も保健衛生の大切さ学び、教えられたことを家族にも共有しています。病気で学校を欠席する子どもたちが多くいましたが、学びを受けた子どもたちの出席率は上昇しています。地域の子どもたちは、保健衛生の習慣を守ることを実践しながら、他の子どもたちにも意識してもらえるようになりました。



子どものための教育プログラム

クリスマスデーのお祝い

現在ジリム集落では、FH バングラデシュの活動に登録されている児童は150人いますが、年齢は保育所から小学校3年生までの子どもたちです。

子どもたちが教育に興味を持つように、2022年にジリム集落で初めてクリスマスデーのお祝いを企画しました。40人の登録児童とその親が参加しました。このイベントに、各村から選ばれた子どもたちが参加しましたが、FHのスタッフによってクリスマスデーのお祝いの目的について説明がありました。ケーキを切り、子どもたちの共通であるお誕生日をお祝いしました。子どもたちは、発表会の機会が与えられ、自分たちの才能を親の前で披露し、両親の心を掴みました。



この日は、特別ゲストとして、地域のリーダーたちやイスラム教の学校の先生が招かれました。子どもたちの熱心な姿を見て、全員がとても喜び、FHのこのような取り組みに感謝をしました。参加した特別ゲストの一人は、「子どもたちが他の村の子どもたちと交流することで、多くの新しい経験をして才能を伸ばすことができます。このようなイベントは、子ども

たちの恥ずかしさを打ち破り、自信を持たせてくれます」と感想を述べてくれました。

150人の子どもたちは、教材を受け取ったことで、より勉強に興味を持つようになりました。以前は、多くの家庭が教材を買うことができなかったため、教材がないために学校に行くのを嫌がる子どもたちが多くいました。現在、登録されている子どもたちは、FHからの教材を手にし、とてもうれしい気持ちで学校に通い、毎日新しいことを楽しく学んでいます。



子どもの日のお祝い

FHに登録されている子どもたち150人が、2日間に亘って開催された「子どもの日」のお祝いに初めて参加しました。地域の協力の下、お絵かき大会、スポーツ大会、文化プログラムなどが行われ、1位、2位、3位を受賞した子どもたちには景品が渡されました。



初日の3月15日は、107人の子どもたちとその保護者が参加しました。子どもたちは年齢別に分かれ、走る、ボールを押す、真似をするなどのゲームをして楽しみました。また、このイベントに先立って、ボランティアたちの協力のもとで、村々で子どもたちのお絵かき大会が開催されました。子ども達は「家族」というテーマで絵を描き、最終選考に残った受賞者に、審査員から商品が配されました。このイベントにも、地域の高校の校長やイスラム教の学校の校長、地域リーダーたちが出席しました。

リーダーの一人は、次のように子どもたちに言葉をかけました。「勤勉に学べば、良い結果が得られ、両親を笑顔にすることができます。私たちの時代には、それほど多くの教育機関はありませんでしたが、今では多くの学校や大学が設立され、さまざまなNGOが活動しているので、あなたたちはとても幸運です。」また母親たちに、「あなたたちが子どもを産んでくれて、とてもうれしいです。子どもたちを結婚させることなく、教育に关心を持たせてください。そうすれば、いつか社会が良くなるはずです。」委員長を務めた方は、「FHのこのような取り組みに満足しています。どの子も勉強や他の活動にもっと興味を持つようになるでしょう。」

2日目は、残りの43人の登録児童が参加して、スポーツ大会と賞金の授与式が行われました。参加した教頭がイベントの司会を務め、「子どもたちと一緒に競技をすることで、子どもたちが自信を持てるようになります。このようなイベントを開催してくれたFHに感謝します」とお礼の言葉が述べられました。

